

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会は、ことしも追悼集会を開きます

< 神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者の像 / 建立10周年記念 / 藍那トンネル事故70周年の集い >

日時：2006年10月15日(日)正午、モニュメント前 集会後、事故現場のひとつ烏原貯水池公園で焼肉の会

申し込みは、神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1

神戸学生青年センター内 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/kobeport/> hida@ksyc.jp



神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者の像

一九二七年八月一日、二名、山田村下等上、竹藪切取り
工事中に土砂崩壊／一九二八年一月一日、二名、神戸市
東山町四丁目東山トンネル東入口、夜間作業中／一九二八
年五月七日、二名、山田村野子奥、墜落した石の下敷／
一九二八年一〇月三日、一名、烏原水源池南、トロッコ洞

たが、一九二八年七月二十六日の大嵐(毎日新聞「神戸」)には、生
くる悲氏／突然増強に苦悶する朝鮮労働者の群がり」とい
記事とともに「夫天下に唯く朝鮮労働者」という写真が掲載
されている。また工事の過程で過酷な労働条件を反映して四
週にわたって労働争議が起きている。要求は「毎月一回の
協定支払」「飯場家賃の撤廃」などであるが、一九二七年に
一九二〇名
の朝鮮人労働者
が参加
したストラ
イキは戦前
において全
国的にも有
数の労働争
議であった。
一九九二
年から始
まった「神
戸電鉄敷設
工事朝鮮人
犠牲者を調



余下山公園
神戸市兵庫区余下山町3丁目

査し追悼する会」の活動により、韓国在住の東山および藍
那トンネル事故犠牲者の遺族とも連絡をとることができ、
一九九四年八月には、遺族を招待しての追悼集会在、神戸電
鉄の非営利である神戸市北区の興隆寺で開催された。遺族は、
「お父さんが日本のどこで死んだかも知らされていなかった。
恨んでも恨みきれない」と語っていた。
藍那トンネル大崩壊(一九九五年一月七日)のち、同志社大
の会は、一九九六年一月二四日、金城武氏製作の「朝鮮人
労働者のブロンズ像」を建立した。落成式には韓国から遺族
も出席し、遺族代表、追悼する会代表、朝鮮総連代表、韓国
領事による行事が行われた。ブロンズ像は神戸市兵庫区余下
山公園の南東のほ
ずれに設置されて
おり、毎年一〇月
の第三日曜日に追
悼集会在開かれ
ている。
(提出者：)

5 神戸電鉄朝鮮人労働者モニュメント

神戸電鉄は船渠を延伸して、東には有名な観光地の有馬
温泉や三田に、西には当初の主要な観光地であった芦野ゴルフ
場や三木に繋がる路線をもち神戸の発展のひとつである。
現在も六甲北麓の住宅地と市街地を結ぶ鉄道として多くの人
に利用されている。
神戸電鉄は神戸有馬電鉄(一九二七、二八年敷設)と、三
本電鉄(一九三六、三七年敷設)が一九四七年に合併して設
立された。一九二〇年代、三〇年代の敷設工事には多くの朝
鮮人が従事していた。その人数は二二〇名から一八〇〇名
と推定されている。山間を走る路線では多くの事故が起こっ
たが、新聞記事から確認される死亡事故は次の五件。死者は
一三名である。
一九二七年八月一日、二名、山田村下等上、竹藪切取り
工事中に土砂崩壊／一九二八年一月一日、二名、神戸市
東山町四丁目東山トンネル東入口、夜間作業中／一九二八
年五月七日、二名、山田村野子奥、墜落した石の下敷／
一九二八年一〇月三日、一名、烏原水源池南、トロッコ洞

土曜突／一九三六年一月二十五日、六名、山田村藍那トンネ
ル東入口、土砂崩壊
東山トンネルの事故は深夜工事中に起こり、労働事故で二
名の朝鮮人労働者が死亡した。藍那トンネル事故は一名が
生き残りとなり、そのうち六名が死亡するという神戸電鉄敷
設工事最大の事故であった。
犠牲者のうち金福斗と金求様は慶尚南道固城出身の親子
であった。

大朝毎日新聞(神戸版) 1936.7.24